



悪性精巣鞘膜中皮腫

(あくせいせいそうしょうまくちゅうひしゅ)



※内容を簡素に記載しております。詳しくはHPをご覧ください。

中皮腫について

肺や心臓などの胸部臓器や胃腸、肝臓などの腹部臓器はそれぞれ胸膜、腹膜という膜で包まれております。これらの膜の一番外側の表面を覆っているのを【中皮】と呼び、この中皮から発生した悪性腫瘍は、その発生部位によってそれぞれ悪性胸膜中皮腫・悪性腹膜中皮腫と呼ばれます。この病気の発生頻度は臓器ごとにそれぞれ異なり、中皮腫のなかでも悪性胸膜中皮腫が90%弱、悪性腹膜中皮腫が10%程度みられます。しかし、それ以外にも心臓表面を覆う心膜から発生する悪性心膜中皮腫、さらにごくまれに精巣の表面から発生する悪性精巣鞘膜中皮腫があり、これらがあわせて中皮腫全体の1%程度にみられます。

精巣鞘膜中皮腫の症状について

精巣鞘膜に発生する中皮腫は初期には特に症状を認めませんが、睾丸（精巣）を包む膜から発生するため、進行して大きくなると睾丸の腫脹や睾丸の圧痛などの症状で見つかることが多いです。

検査・診断について

中皮腫は、血液検査や画像検査では確定診断することができません。確定診断には、実際に病変部位を生検し、組織を採取することが必要となります。

治療について

中皮腫はどの臓器にできても非常に治りにくい難しい病気の一つです。治療法としては、外科療法（手術）、放射線療法、化学療法および対症療法があります。これら治療の選択は病変が原発の部分に限局しているのか、全身のどこまで広がっているかなどを総合的に判断して決定しています。

治療の基本は、完全切除が可能であれば手術を検討します。

精巣鞘膜中皮腫では、腫瘍が精巣鞘膜に限局している場合、高位精巣摘除術という手術方式で腫瘍完全切除が望めます。その後、放射線照射や化学療法の治療については各専門医師と相談したうえで治療方針を検討していきます。

病変が全身に広がってしまっていた場合、治療の中心は緩和ケア（症状緩和）と化学療法となります。

